

バイオテクノロジー標準化支援協会ジャーナル No.130

SABS Journal No. 130

発行日：2022年3月7日

URL：<http://sabsnpo.org>

当 SABS ジャーナルでは、故奥山典生東京都立大学名誉教授が 2015 年 6 月 13 日のご逝去直前まで毎回様々な分野にわたり溢れる蘊蓄を披露されて居られました。その後、奥山先生のご遺志を継いだ我々が当協会を続けさらに発展させて行くため、毎月の定例会を継続して来ました。定例会ではこれ迄通り専門家の方々に話題を提供して頂き、自由な討論を通じて勉強と親睦を深めて来ています。

今 130 号はこれまで 2 度も出してきた号外の‘本番’です。最後の号外では「大変残念ながら本年最初の定例会として予定していた 2 月 26 日（土）を来月（3 月 12 日）に延期する」と書きました。今回は再び‘大変残念ながら’この 3 月 12 日の定例会も延期することをお知らせしなければなりません。

思えば昨年 12 月 4 日（土）に例年通り忘年会を兼ねた定例会を開けたのが最後となってしまいました。当時いわゆる第 5 波が殆ど収束していたので十数人の方々の出席で大いに盛り上がったのですが、今年に入って感染者数は日に日に急激に増加し何とこれまでに最大の、昨夏の第 5 波の 5 倍近い第 6 波になってしまったわけです。

昨年 11 月の第 129 号では「数日前に新しい変異株の出現が報じられました。南アフリカ起源のオミクロン（omicron）と呼ばれているこの株はスパイクタンパク質に何と 32カ所も変異がある事が分かっている、これまで知られる α 株や δ 株が数カ所の変異だったのとは大きく異なるようです」等と書きました。

今ではこの株がこれまで世界で猛威を振るっていたデルタ株に比べて感染力が非常に強いこと、重症化率については肺炎に関してはかなり低いとか、そして現在有効性が確認され世界中で広く接種されている mRNA ワクチンが同じように効くらしいということが段々に分かってきました。どうやら日本でもデルタ株を駆逐した様で、このことがこの第 6 波の大きな原因らしいと言われていています。そして 3 回目の接種が有効であるということで、日本でもこの 3 回目接種は遅れてはいますが現在進みつつあります。これまでの感染者数のパターン（[第 1 波～第 6 波 感染者数グラフ（全期間を 1 画面表示） | NHK](#)）を見ますと丁度夏季オリンピックのころの第 5 波の 5 倍近く大きな第 6 波です。更にこのグラフを見るとここ数週間は緩やかながら収束し始めたかに見えます。ただしこの緩やかさが気になります。第 5 波は急激に下がったからです。これについては、オミクロン株 BA.1 の変異株 BA.2 が拮がりつつあるためなのかとも言われています。BA.2 は BA.1 より更に感染力が強いと言われ、欧米などでは既に置き換わっていると言われていています。この変異株にも効果があるといわれる 3 回目接種が思ったほど進んでいません。それも気になるところです。第 7 波が来るの

を抑えるのはいろいろ出てきた治療薬の普及と3回目接種の進行が不可欠でしょう。

そしてこのBA.2が変異の最後である筈はなく、将来どういう株が出ては消えていくわけですが弱い株になって行くのか強い株も出てくるのかこれに関連する記事を一つ読みましたが現在のところ専門家もよく分からないようです。

https://www.nature.com/articles/d41586-022-00510-y?utm_source=Nature+Briefing&utm_campaign=a4b34d37eb-briefing-dy-20220302&utm_medium=email&utm_term=0_c9dfd39373-a4b34d37eb-46091586

さて今冬の異常な寒さもこの数日和らぎ始め、遅れていた梅も満開になっています。このような時期にウクライナでは戦争が始まってしまいました。毎日テレビで見る映像は戦況が日に日に酷くなっていることを伝えていきます。そして気になる事があります。今世界は未だコロナ禍なのに人々はマスクもしないで避難していることです。「ワクチン接種率35%の国への侵攻、世界のコロナ感染状況も暗転か」という記事のあるSNSで読みました：[ワクチン接種率35%の国への侵攻、世界のコロナ感染状況も暗転か | \(carenet.com\)](#) 一部を引用します：“ウクライナ、ロシアに関して危惧すべきことがある。まさにいま世界中で流行している新型コロナウイルスの感染拡大だ。まず、ウクライナは2月中旬にピークとなる38,000人超の感染者が発生。その後はピークアウトしているものの、今回のロシア軍の侵攻直前の2月21日でも13,000人超の感染者が報告されていた。ウクライナの総人口は約40,000,000人なので、人口換算では日本で1日の新規感染者報告数が約4万人になっているのと同じことになる。現時点の日本の感染状況から見ればマシだが、ウクライナの国力や周辺環境から考えれば、実は深刻な数字だ。まず、現在のウクライナの新型コロナウイルスワクチン接種完了率は、[Our World in Data](#)によるとわずか35.02%。全世界平均の55.69%からすれば惨憺たる数字だ。しかも、戦時下で新型コロナウイルスワクチンの接種を進めていられる環境ではなくなったと断言してよい。”

さらにテレビでは伝えられていないこのような事実があるようです：

”国際通貨基金（IMF）が公表している1人当たりの国内総生産で、ウクライナは世界195カ国・地域中第126位の3,424.77ドルでヨーロッパ最貧国という窮状にある”

そうだとすると医療機材や病床数、医師の人数も次々に運び込まれる戦傷者の治療に追われコロナどころではないのでしょう。

コロナ以外にもNature誌にはウクライナの研究者や教育者、学生の問題も載りました：[‘I thought I had forgotten this horror’: Ukrainian scientists stand in defiance \(nature.com\)](#) ここでは如何にこの国の大学や研究機関が戦争で酷い目にあっているかが書かれています。

今や事態は文字通り刻一刻と変化しています。核戦争の可能性すら出てきて今のところ悪い方に向かっている感があり、決して「遠い国々の問題」とやり過ごせません。出来るだけ早く停戦が実現しこれ以上死傷者が増えないことを祈るばかりです。

次回定例会は4月23日に開きます。久しぶりですので開始時間を早めて12時30分としたいと思います。通風を良くしマスク着用の上での軽い飲食と自由な会話の場としたいと考えています。話題は昨年からお願ひしている松下浩司さんのワクチンのお話と松本邦男先生の野口英世のお話を予定していますが、それぞれの先生方のご都合もあり、未だ1カ月以上先ですし、コロナ禍の収束状況もあり、未定といたします。次のジャーナル第131号でお知らせ出来ると思ひています。

バイオテクノロジー標準化支援協会 (SABS) 第107回 定例会

日時：2022年4月23日(土) 12時～17時

場所：八雲クラブ (東京都立大学同窓会)

(渋谷区宇田川町12-3 ニュー渋谷コーポラス10階)

演者：未定

話題：未定

八雲クラブではパソコンやプロジェクターが使えます。

定例会会場八雲クラブへの道順：

渋谷駅ハチ公交差点から井の頭通りの坂道の右側を東急ハンズの看板目指して上ります。ハンズの手前で右の急坂を登って行き、坂の途中で左に曲がり新しい高層ビルを右にみながら坂道を登り直ぐ左側にある古いマンションがニュー渋谷コーポラスです。入口奥のエレベーターで10階に上ると直ぐ左隣の部屋が八雲クラブです。

ご注意： 定例会は、現在は原則として第4土曜日に開催しています。なお7月と8月と11月はお休みです。また12月は忘年会で第1土曜日に開催しています。

会場の都合で第4土曜日ではなく他の土曜日となることがありますがその場合は前もってお知らせいたします。なお第108回は既に5月28日に予約してあります。

このジャーナルはバイオテクノロジー標準化支援協会 (SABS) 会員だけではなく、広い意味でのバイオテクノロジー関係の方々にも配信しています。現在、このジャーナルを読んで下さる方々は600名近く居られます。殆どの方が奥山先生の関係で先生の広かった人脈に改めて驚いています。ぜひ読者の方々からも話題提供をして下さる方をお待ちしています。当SABSジャーナルのホームページ https://sabs.sabsnpo.org/sabs_j/ ではジャーナルの最新号を含めたバックナンバーが収録してあります。またお知り合いの方でこのジャーナルを配信希望の方が居られましたら会員である必要はありませんのでぜひ筆者のアドレス thiyama@athena.ocn.ne.jp に直接お知らせください

当協会のもう一つの大きなプロジェクトはインターネットジャーナル「医学と生物学」の

発行です。故緒方富雄博士が 1942 年に創刊した総合学術雑誌を復刊したものです (<https://medbiol.sabsnpo.org/EJ3/index.php/MedBiol/issue/archive>)。創刊号からのバックナンバーも収録しています。

配信停止希望の方は thiyama@athena.ocn.ne.jp にその旨お知らせください。

- ① 配信先アドレス等の登録情報変更も メールにてその旨お知らせください。
- ③ バイオテクノロジー標準化支援協会に新規会員登録ご希望の方もメール下さい。
- ④ ウェブサイトに関するご意見もメールにて頂ければ幸いです。

特定非営利活動法人**バイオテクノロジー標準化支援協会**

NPO Supporting Association for Biotechnology Standardization (SABS)

〒173-0005 東京都板橋区仲宿 44-2

URL:<http://sabsnpo.org>.

理事：荒尾 進介、小林 英三郎、田坂 勝芳、松坂 菊生、小川哲朗、川崎博史、檜山 哲夫

監事：堀江 肇

ネット管理：川崎 博史、田中 雅樹